▼ケタラール静注用 200mg・▼筋注用 500mg　［注］

【重要度】　【一般製剤名】ケタミン塩酸塩（U）　Ketamine Hydrochloride　【分類】全身麻酔剤
【単位】▼静注用 200mg/20mLV，▼筋注用 500mg/10mLV【麻薬】
【常用量】■静注用：1～2mg/kg■筋注用：5～10mg/kg
【用法】1 分以上かけて静注，筋注
【透析患者への投与方法】尿中未変化体排泄率が低いため減量する必要はないと思われる（5）が腎不全患者では高血圧を来たしやすいためあまり使用されない（11）
【その他の報告】不明（3）
【保存期腎不全患者への投与方法】減量の必要なし（3,12）
【特徴】筋注でも静注でも投与することができる水溶性麻酔剤。皮膚、筋肉、骨の痛みに対し強い鎮痛作用を有し、手術に必要な無痛状態が得られるが、内臓痛に対しての鎮痛作用は弱い。入眠時間が静注で 30～90 秒、筋注で 2～8 分と遅い。血圧降下作用がなく、臓器毒性がなく、繰り返し投与可能なことが利点であり、覚醒が遅くせん妄、不快な夢を見たり嘔吐があるのが欠点。血圧上昇作用があり、心拍数も増加する。熱傷患者のガーゼ交換等疼痛を伴う処置時の除痛にも用いられる
【主な副作用･毒性】徐脈、不整脈、血圧降下、過血圧上昇、痙攣、覚醒時反応（夢のような状態、幻覚、興奮、錯乱など）、消化器症状，発疹、皮膚紅斑、唾液分泌過多、発熱、発汗、興奮、めまい、口渇、頭痛、精神症状、悪寒、複視、眼振、眼内圧上昇など
【モニターすべき項目】心機能（U）
【F】16%［im］（14）16.5%、肝障害では上昇する（11）
【代謝】肝代謝（U）肝で demethyl 化され norketamine，水酸化から dehydraton されさらに抱合体に代謝される（11）
【排泄】尿中未変化体排泄率 9%（14）2～3%（12）4%（U）2%（11）尿中回収率 90%（U,11）糞便中は 4%以下（U）【CL】1.23～1.32L/ min（11）
【t1/2】未変化体ケタミンの t1/2 は 4hr（1）3hr（14）α相：7～11min 、β相：2～3hr（U）2.0～3.5hr（12）【腎不全患者の t1/2】腎機能正常者と同じ（12）
【蛋白結合率】20～50%（11）
【分布】脳を含む組織に急速に分布する。動物では脂肪組織、肝臓、肺に高濃度で分布する（U）214～347L/body（1）2L/kg（14）1.8～3.1L/kg（12）
【MW】274.19
【透析性】Vd が大きいため透析で効率的には除去されにくいと考えられる（5）
【TDM のポイント】有効治療域 0.7～3μg/mL（14）TDM は一般的に実施されていない。R(－)ケタミンは S(＋)ケタミンの消失を阻害する　(Ihmen H et al :Clin Pharmacol Ther 70:431-438,2001)【pKa】7.5（1）
【効果発現時間】静注投与した場合 30sec～1min、筋注投与した場合 3～4min で手術可能な麻酔状態が得られる。
【効果持続時間】静注：5～10min 前後、筋注：12～25min 前後
【更新日】20230509

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。